

「野神小学校の早馬棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立野神小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生（計69人）

3 場所・日時

- (1) 練習の場所・日時
9月運動会前の体育学習
- (2) 発表の場所
9月野神小学校運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

- (1) 名称
早馬棒踊り（はやまぼうおどり）

- (2) 由来

歴史についての正確な記録は残っていないが、藩政時代から伝承されてきたと言われている。太平洋戦争中は一時中断されていたが、当時の草野・宮下集落の青年団が中心となって、昭和23年頃に早馬棒踊り保存会を立ち上げ復活させた。それ以降一度も途切れることなく現在に至っている。

この行事は、農耕などに使っていた牛馬をまつるためのもので、集落内の小高い丘にある「早馬どん」の石碑の前で踊りを奉納する。その後、集落内の数カ所で踊りを披露する。

野神小学校では、運動会の上学年の表現プログラムとして、4、5、6年生が合同（約50人）でこの棒踊りを踊っている。郷土の素晴らしい伝統芸能を、小学校でも残していこうとスタートし、始まってから約20年になる。体育の時間に、保存会の方々にも来校していただき、指導を受けながら、毎年の運動会で保護者や地域の方々に披露している。

- (3) 構成等

3尺棒を持った3人と6尺棒を持った3人が2直線を成し、計6人が1組となり踊る。曲は8番まであり、同じ動きを繰り返す。頭に鉢巻、上には浴衣と3色たすき、下には袴下と脚半を身にまとい踊られる。運動会での児童は、鉢巻、法被、3色たすきを身にまとい、大きなかけ声を出しながら踊っている。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年9月の運動会の練習の時期に、棒踊り保存会の方々（約10名）に来校していただき、早馬棒踊りの踊り方を指導していただいている。野神小学校では、この棒踊りを表現プログラムの1つとして位置付けており、正課体育の中でも練習を行っている。3学年が合同で行うという利点を活かし、6年生が4、5年生に踊り方を教えるという縦のつながりができており、棒踊り保存会の方々の指導と合わせて地域で伝承していく体制が整っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために工夫している点は、毎年、棒踊り保存会の方々に来校していただき、児童への指導をお願いしている点である。毎年、約10名の方々が、お忙しい時間をぬって来てくださっている。また、体育の表現運動として授業に組み込んでいる。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



保存会の方々の指導の様子



運動会での発表

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 棒の動かし方を少し忘れていたが保存会の方が丁寧に教えていただいていたので思い出すことができました。4年生に踊りを教えるのは難しかったけれど全員踊れるようになって嬉しかった。
- ・ 初めて踊ったので難しかったけれど6年生や保存会の方が動きの意味をわかりやすく教えていただいていたので動きがよくなった。本番では家族の前で踊れて良かった。

【保護者】

- ・ 野神校区に伝わる早馬棒踊りを一生懸命踊る姿を見て涙が出てきた。これからも続けて欲しい。
- ・ みんなの動きが揃っていてカッコよかった。棒踊りを一生懸命踊る姿はいつ見ても感動します。

【保存会】

- ・ 子供たちに教える棒踊りは、保存会で引き継いでいるものを簡略化した部分もありますが、踊り方だけでなく、郷土を愛し、守ってという心も教えていきたいと思っています。地域に残る郷土の棒踊りを、自分たちの後輩である小学生に指導・伝承できることを大変うれしく思っています。毎年の子供たちへの指導の時間を楽しみにしています。

【教員】

- ・ コロナ禍の中の実施ということもあり、検温・消毒の徹底・マスクの着用やかけ声の省略などを行った。その中で、細かい動きを保存会の方々に一つ一つ教えていただき、子供たちの動きがよくなったと感じた。毎年運動会前に保存会の方々に来校していただき、お手本の踊りを見せていただいていたので保存会の方々に感謝している。運動会では、練習の成果を発表できて、たくさんの方から賞賛の声をいただいた。